

「まとめ」「説明」今回も正答率低め 全国学力調査

2017年8月28日17時00分

文部科学省は28日、全国の小学6年と中学3年の計約200万人が受けた2017年度の「全国学力調査」の結果を発表した。10回目となる今回も例年と同様に、国語、算数・数学とも、必要な情報を整理して考えをまとめたり、判断の理由を説明したりする問題の平均正答率が低かった。

大学入試センター試験に代わり、20年度から始まる「大学入学共通テスト」では、問題形式の変更や記述式の導入でこれまで以上に「思考力・判断力・表現力」が問われ、新しい学習指導要領でも重視されている。今回の調査結果は、いまの小中学生にもこうした点で課題があることを示したといえそうだ。

各教科の都道府県ごとの平均正答率を比べると、小中とも石川県、秋田県、福井県が上位だった。いずれも例年上位に入る県だ。調査が始まった当初から比べると、上位県と下位県の差は縮小している。また、今年からは新たに政令指定都市ごとの成績が公表された。

●都道府県別の上位3県の平均正答率（公立校）

小6

【国語A】①秋田県 80%、②青森県、石川県 79%

【国語B】①秋田県、石川県 64%、③広島県 61%

【算数A】①石川県 85%、②秋田県 84%、③富山県、福井県、愛媛県、高知県 82%

【算数B】①石川県 53%、②福井県 51%、③秋田県、愛媛県 50%

中3

【国語A】①秋田県 78%、石川県、福井県 82%

【国語B】①秋田県 78%、②石川県、福井県 77%

【数学A】①福井県 73%、②石川県 69%、③秋田県、富山県、兵庫県 68%

【数学B】①福井県 54%、②石川県 53%、③秋田県 52%

(※A問題は基礎中心、B問題は応用力を問う)